

歴博 くらしの植物苑だより

【くらしの植物苑観察会】

会場：くらしの植物苑 東屋 時間：13:30～

第130回 1月23日(土)『出土資料からみたツバキ』 講師：永嶋 正春

第131回 2月27日(土)『造花にこめられた春の祈り』 講師：松尾 恒一

第132回 3月27日(土)『村絵図を持って村を歩こう』 講師：久留島 浩

【今週のみどころ】 <http://www.rekihaku.ac.jp>

* 休苑日のお知らせ *

年末年始[12月27日(日)～1月4日(月)]、毎週月曜日[月曜日が祝日の場合は翌日]

『冬の華・サザンカ展』開催中！！

開催期間：12月1日(火)～1月31日(日)



サザンカは日本を原産とし、ツバキとともに冬枯れのさびしい庭をいろどる数少ない花木の代表です。サザンカの自生種は、沖縄の西表島から九州とその周辺諸島および四国の西南部などに分布しています。野生のサザンカは一重の白い花を咲かせますが、園芸品種のサザンカは一重、八重、千重、獅子咲きなどがあり、直径10cmを超える大輪から小さいものまであります。花色も白のほか、紅、桃、ほかしなど濃淡さまざま、多彩です。『花壇地錦抄』(1695年)には、「茶山花のるひ」として、「三段花」などいくつかの品種が記載されています。現在では約300の品種が知られており、また、最近では古く海外に渡ったサザンカが改良された後、里帰りしている例もみられます。

このように、今日みられる品種は、近世から現代にいたるまでのサザンカと人のかかわりのさまざまな歴史を含んでいます。しかしながら、残念なことに、そうしたサザンカの多彩な姿は、あまり広く知られてはいません。

くらしの植物苑では、約150品種のサザンカを鉢植えで栽培管理し、たくさんのサザンカを展示することで、その多彩さを多くの方々に知っていただき、人とサザンカのかかわりの歴史を見直しながら、展示をしています。

今年度の特別企画展は「育て方と楽しみ方」を共通テーマとしており、『冬の華・サザンカ』では、挿し木や剪定方法をパネルで展示し、また、近代に作成された番付表を展示するとともに、苑内で人気投票を行い、その結果を番付表にして苑内の東屋とホームページにて発表します。(発表は1月26日(火)予定)。

園芸品種の分類と品種群

サザンカは、特性によって、サザンカ群・カンツバキ群・ハルサザンカ群・タゴトノツキ群の4つの品種群に分かれます。

サザンカ群：形態、生態的に自生種に近いグループ。10月から12月にかけて開花。一重か二重。樹形は自生種に似て、多くは立性。香りは強い。



カンツバキ群：中部地方に古木が多い‘獅子頭’(関東では‘寒椿’と呼ぶ)の実生または後代と考えられるグループ。11月から3月にかけて開花。八重咲きや獅子咲きの華やかな品種が多い。樹形は立ち上がり横張り性のものが多い。香りは弱い。



ハルサザンカ群：サザンカとツバキ(主としてヤブツバキとその園芸品種)との種間雑種またはその後代と考えられているグループ。12月から4月にかけて開花。一重から八重や千重咲きまで様々。樹形は立性から横張り性までである。香りはほとんどないものから強いものまでである。



タゴトノツキ群：昭和初期からサザンカとして扱われてきたものに‘田毎の月’という品種がある。白色の小輪で、11月頃に咲き、葉は極端に大型で表面に光沢がほとんどない。現在では、この品種は中国原産のユチャの系統と考えられている。香りは弱い。